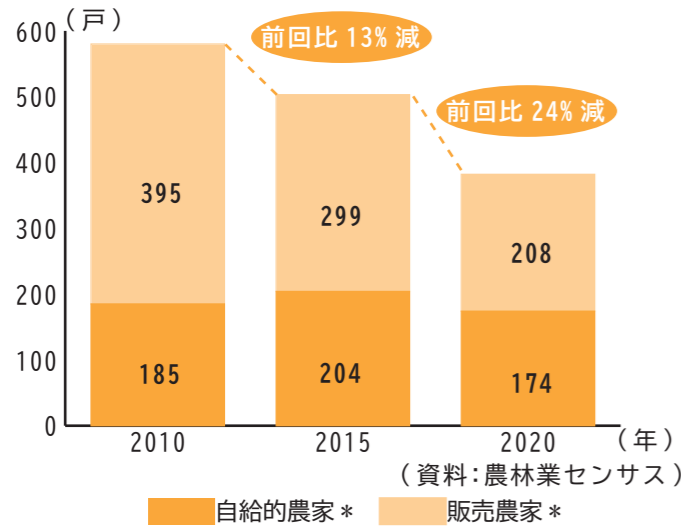


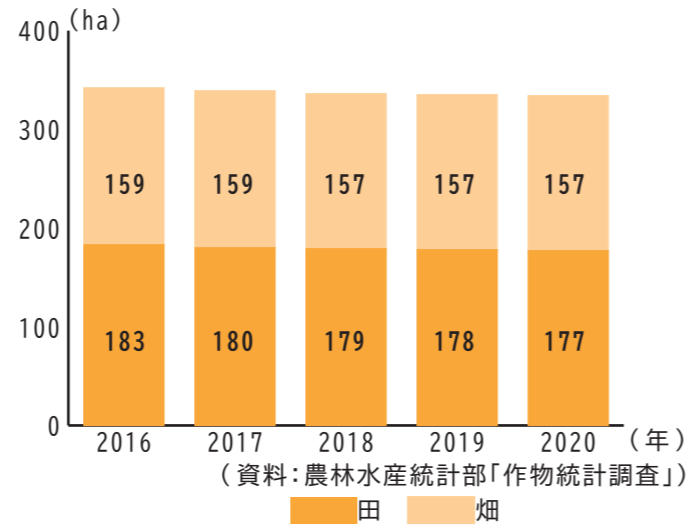


現状

【農家数の推移】



【耕作面積の推移】



自給的農家とは経営耕作面積が30a未満かつ農作物販売金額が年間50万円未満の農家。販売農家とは経営耕作面積が30a以上または農作物販売金額が年間50万円以上の農家。

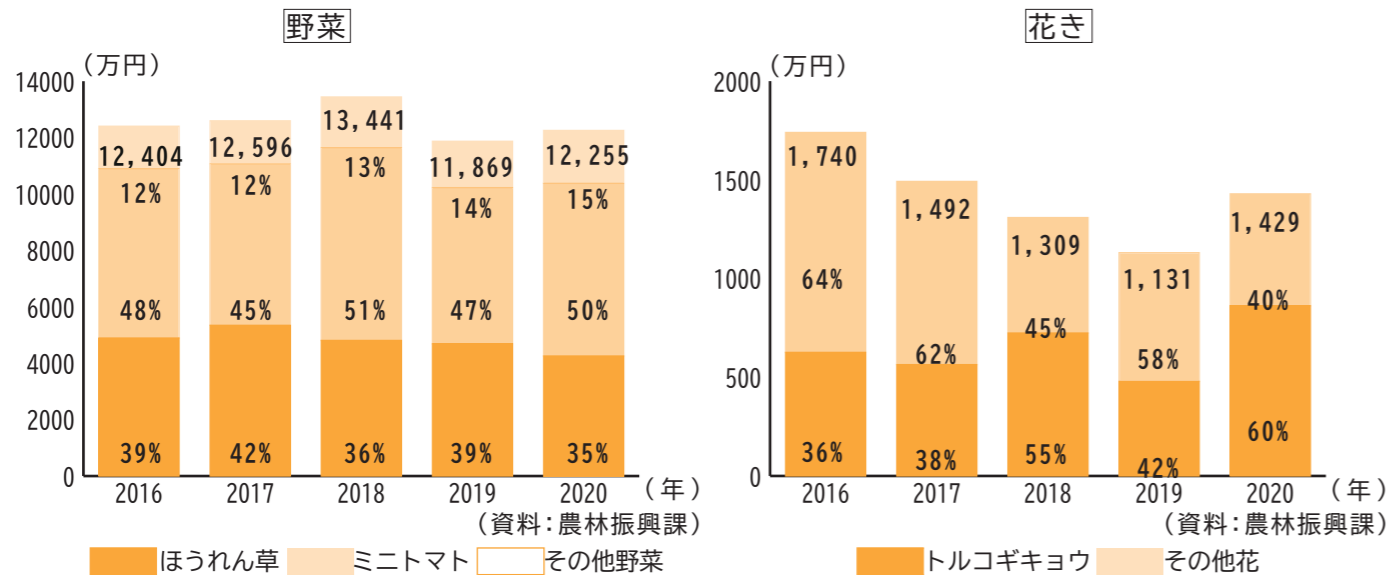
【新規就農者数の推移】

| 新規就農者数 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 2人 | 0人 | 1人 | 1人 | 1人 |

（資料：農林振興課）

新規就農者を増やすため地域おこし協力隊制度を活用しました。

【農作物の販売高（JA出荷分）】



目標

産業としての農業は、(1販売農家あたりの所得)×(販売農家数)で表される数値を最大化することを目標とします。暮らしとしての農業は、農的暮らしを実践できる環境づくりを推進します。*畜産業については分野「6.畜産業の振興」に掲載しています。

| 数値目標 | 2020年度 (実績) | 2026年度 (目標) | 備考 |
|----------|----------------|----------------|---|
| 販売農家数 | 208戸 | 150戸 | 農林センサスより |
| 自給的農家数 | 174戸 | 165戸 | 農林センサスより |
| 農産物販売高 | 47.9% | 47.9% | 野菜（ほうれん草・ミニトマト・七草・その他野菜） 花き（トルコギキョウ・デルフィニウム・ラナキュラス・その他花き） 上記のJA出荷分と、八菜館しいば店の販売額を足した独自指標 |
| 年間新規就農者数 | 1人 | 1人 | |

関連する個別計画

- （策定済）椎葉村田圃環境整備マスタープラン（期間なし）
- （策定予定）農業振興地域整備計画（2022～2026年度）
- （策定予定）椎葉村農村振興基本計画（2022～2032年度）
- （策定予定）椎葉村食育・地産地消推進計画（2022～2026年度）
- （策定予定）椎葉村農業経営基盤強化促進基本構想（2022～2026年度）

行動指針

(1)～(3) に関して

産業としての農業振興に関して、これまでは農業者の経営コストを下げるための支援が中心でした。今後より一層の振興を図るために売上増加に寄与する具体的な対策が必要です。JAや部会といった関係団体と連携しながら村産品のブランディングや域内流通の最適化等を推進できる民間経験者・外部人材を登用し推進していきます。

(4) に関して

経営耕作面積の減少から遊休農地も増加しています。荒廃が進んで復旧困難な農地の非農地認定を迅速に行います。また同時に利用できる農地は希望者にスムーズに貸し出せるよう斡旋活動を強化します。

(5) に関して

高齢でも生きがいとして農業を続け、できた農作物を直売所等で販売する農業者もいます。また、自然栽培や有機農業に興味を持つ移住者もいます。このような人との交流の場を設け意見交換を行いながら、必要な支援策を計画・実践していきます。

チーム



施策の体系

